

# 令和8年議会報告会報告書

令和8年9月8日

広報広聴委員会

## I. 開催方針の検討

市民との対話を通じて議会活動への理解を深めるとともに、市民の多様な意見を把握し、今後の議会活動に反映していくことは、開かれた議会を推進する上で重要である。

広報広聴委員会では、昨年度、高校生を対象とした対面による議会報告会を開催し、若い世代に市議会の役割や仕組みに触れていただくとともに、若者ならではの率直な意見を聴く機会を設けた。本年度については、昨年度の成果や課題を踏まえた上で、対象者や実施方法、意見交換のテーマ等について検討を行った。

その結果、本市には医療・福祉分野の専門職を目指す多くの学生が学ぶ「国際医療福祉大学」が立地していることから、同大学の学生を対象として議会報告会を開催することとした。開催に当たっては、単に議会から活動内容を報告するだけではなく、学生に市議会をより身近に感じてもらうため、市議会の概要説明に加え、実際の議場を使用した模擬採決体験を取り入れることとした。また、意見交換会については、「国際医療福祉大学生と考える 大田原市の医療と福祉の未来について」をテーマとし、各常任委員会単位の少人数による車座方式で実施することとした。

医療・福祉を学ぶ学生が、日頃の生活や学びを通じて感じている本市の現状や課題を率直に発言できる場を設けるとともに、議員との対話を通じて解決策や本市への提案まで考えてもらうことで、若い世代の市政・議会への関心を高めるだけでなく、学生の視点や専門性を今後の議会活動及びまちづくりに生かすことを目的として開催方針を決定した。

## II. 具体的決定事項（令和8年議会報告会実施概要）

### 1. 開催方針

- (1) 根拠 実施要綱（令和元11月1日改正）に準拠
- (2) 班編成 意見交換においては、各常任委員会単位の班編成とする  
※全体の進行等は広報広聴委員において行う
- (3) 参加者 国際医療福祉大学の学生（15名程度）

### 2. 概要

- (1) 実施日時 令和8年8月3日（月）
- (2) 実施会場 大田原市役所本庁舎 7階議会フロア（議場等）
- (3) 当日次第等

#### ①議会報告（大田原市議会の概要）

概要説明：広報広聴委員会において統一資料を作成

#### ②議場見学

採決体験を実施

#### ③意見交換会（各常任委員会単位で実施）

テーマ「国際医療福祉大学生と考える 大田原市の医療と福祉の未来について」

### 3. 常任委員会における準備事項

- (1) 各常任委員会において当日の役割を分担する
- (2) 意見交換会時の議事録は、各常任委員会で作成するものとする

### 4. 周知方法

議会ホームページ、Facebookに記事を掲載。実施報告は、議会だより11月号に掲載する。

## Ⅲ. 開催結果（日時・場所・参加人数及び担当班）

### 1. 日時・場所・参加人数

| 開催日                      | 場所             | 参加人数                   |
|--------------------------|----------------|------------------------|
| 8月3日（月）<br>14時00分～16時00分 | 本庁舎7階<br>議会フロア | 国際医療福祉大学<br>学生14名 引率2名 |

### 2. 意見交換会担当班

| グループ | 担当議員 |                                                      |
|------|------|------------------------------------------------------|
| A    | 委員会  | 総務常任委員会                                              |
|      | 委員   | 滝田一郎（委員長） 津守那音（副委員長）<br>秋山幸子 谷田雅洋 櫻井潤一郎 大豆生田春美 小野寺尚武 |
| B    | 委員会  | 民生文教常任委員会                                            |
|      | 委員   | 岡野 忠（委員長） 内藤幹夫（副委員長）<br>伊賀 純 高瀬重嗣 君島孝明 大塚正義 前田則隆     |
| C    | 委員会  | 建設産業常任委員会                                            |
|      | 委員   | 藤田善幸（委員長） 北原裕子（副委員長）<br>齋藤藤男 平山一浩 中川雅之 菊池久光 前野良三（欠席） |

## Ⅳ. 次第（全体：110分）

1. 開会及び進行（北原 広報広聴委員会 副委員長）
2. 開会挨拶（君島議長）
3. 議会報告（津守 広報広聴委員会 委員長）
4. 議場見学・模擬採決体験

模擬採決体験テーマ

- (1) 市は大学卒業後、市内に就職した学生に30万円の定住支援金を交付すべきである
- (2) インターネット投票の是非について

- (3) 14歳以下のSNSの使用を禁止する条例の是非について
- 5. 意見交換会（80分程度）
- 6. 閉会挨拶（大豆生田副議長）
- 7. 記念撮影・解散

## V. 意見交換会の内容

詳細な内容は、別紙各グループの報告書を参照。

## VI. 評価及び所感

今回の議会報告会は、国際医療福祉大学の学生を対象として初めて実施したものであり、学生14名及び引率者2名の参加を得て開催した。

議会報告では、市議会議員の役割や議会運営の仕組み、市民の声が市政に反映されるまでの流れなどについて説明するとともに、議場見学及び模擬採決体験を実施した。実際の議場で電子採決を体験してもらうなど、普段接する機会の少ない市議会を身近に感じてもらうことで、市政や議会への理解と関心を深める一つの契機になったものと考えられる。

意見交換会では、「国際医療福祉大学生と考える 大田原市の医療と福祉の未来について」をテーマとして、各常任委員会単位（総務・民生文教・建設産業）の3グループに分かれ、少人数による車座方式で実施した。議員からの説明を中心とするのではなく、学生の発言を主体として、日頃の学生生活、実習等を通じて感じている本市の良いところや課題を出し合い、その解決策や大田原市への提案について意見を深めた。

各グループからは、大学周辺の道路や歩道、防犯灯、公共交通など、学生が日常生活の中で感じている身近な課題が多く挙げられた。特に、路線バスの利便性向上（交通系ICカード決済の導入等）、道路・歩道の安全性の確保、防犯灯の充実など、学生が安心して生活するための環境整備について、具体的な意見が出された。

また、医療・福祉の面では、本市には国際医療福祉大学の関連施設をはじめ、医療・福祉施設が多く、幅広い実習や学びの機会が得られることを本市の良い点として評価する意見があった。一方で、大学周辺で体調を崩した際に受診できる医療機関が限られていることや、自家用車を持たない学生にとって医療機関への移動が容易ではないことなど、学生生活の実態に即した課題も示された。

高齢者福祉についても、道路や歩道の段差・凹凸など、高齢者の視点に立った生活環境の整備や、介護予防・健康づくりの重要性について意見が出された。また、国際医療福祉大学の専門性を生かし、学生と地域の高齢者が運動や健康づくりを通じて交流するなど、大学と地域が連携した取組についても提案があり、本市が有する大学という地域資源をまちづくりに生かしていく可能性を改めて認識する機会となった。

さらに、3グループを通じて重要な課題として挙げられたのが、若者の定住と医療・

福祉人材の確保である。学生からは、低学年のうちから市内の医療・福祉施設や就職先について知ることのできる機会を増やすことや、市内に就職する学生への支援などの提案があった。市内に医療・福祉を専門的に学ぶ大学があり、多くの学生が学んでいるという本市の強みを卒業後の市内での就職や定住につなげていくためには、大学、行政、医療・福祉関係機関等が連携し、学生が大田原市で働き、暮らすことを具体的にイメージできる環境を整えていくことが重要であると感じた。

今回の意見交換で特に意義深かったことは、学生が単に要望を述べるだけでなく、自ら地域の現状や課題を考え、「自分が市長や市議会議員だったらどうするか」という視点から解決策を検討し、各グループから本市への提案として発表したことである。学生の率直な意見の中には、議員にとって日常の風景となり、これまで十分に認識できていなかった課題もあり、世代や立場の異なる市民の声を直接聴くことの重要性を改めて認識する機会となった。

また、少人数による車座方式としたことで、議員と学生との距離が近く、学生一人一人が発言しやすい雰囲気の中で意見交換を行うことができた。各グループにおいて活発な意見が交わされ、最後に学生自身が意見を整理し、発表したことから、今回の実施方法は一定の成果があったものと評価する。

一方、議会報告会は、意見を聴くことだけで完結するものではない。今回の学生からの意見や提案については、各常任委員会及び議員間で共有・精査し、一般質問や委員会活動等を通じて市政へつなげていくことが重要である。併せて、学生からの意見や提案が実際に、その後どのように議会で議論され、市政へ反映されたのかを可能な限り参加者に伝えていくことが、議会に対する関心と信頼を高めることにつながるものとする。

今後も、今回の成果や課題を検証しながら、参加対象者やテーマ、開催方法等について更なる工夫を重ね、若い世代をはじめ幅広い市民が参加しやすく、率直な意見を交わすことのできる議会報告会を目指していく必要がある。議会から市民へ「伝える」だけでなく、市民の声を「聴き」、共に地域の課題を「考え」、その声を市政へ「つなげる」議会報告会として発展させることで、より開かれた、市民に身近な議会となるよう取り組んでいきたい。

以上

令和8年8月21日

## 報 告 書

大田原市議会 広報広聴委員会委員長 津守 那音 様

大田原市議会 総務常任委員長 滝田 一郎

大田原市議会報告会実施要綱第9条第1項の規定により、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 担当議員と役割

##### 【担当議員】

滝田 一郎（案内（7階））  
津守 那音（意見交換司会）  
秋山 幸子（写真撮影）  
谷田 雅洋（案内（1階））  
大豆生田 春美（受付・資料配布）  
櫻井 潤一郎（書記責任者）  
小野寺 尚武（書記、その他支援等）

#### 2 参加者 国際医療福祉大学生 5名

#### 3 意見交換会の内容

テーマ：国際医療福祉大学生と考える 大田原市の医療と福祉の未来について

##### ◆意見交換 Aグループ

##### (1) 道路・交通安全・防犯灯について

- ・大学周辺や学生寮・アパート周辺には、歩道が狭く危険な箇所がある。特に教習所付近など、学生が日常的に利用する道路の安全対策が必要。
- ・車道が狭く、大型車同士のすれ違い時に中央線をはみ出すことがあり、事故の危険を感じる。道路の拡幅や安全対策を進めてほしい。
- ・道路の白線・センターラインが薄くなっている箇所があり、夜間の運転や通学時に危険を感じるため、引き直してほしい。

- ・大学周辺や未広地区など、夜間に暗い道路・住宅街があり、防犯灯・街灯を増やしてほしい。
- ・歩道の舗装が傷み、凹凸がある箇所は、散歩やランニング時にも危険である。

(2) 生活環境・臭気について

- ・大学周辺では、畜産・農業由来と思われる臭いが強い日があり、授業中や食事中にも気になることがある。
- ・臭いのため洗濯物を屋外に干しづらいなど、実際の学生生活に影響が出ている。
- ・農業・畜産業との共存を前提に、地域や関係者と協力しながら改善策を検討してほしい。

(3) 高齢者の健康づくり・介護予防について

- ・大田原市は元気な高齢者が多く、福祉サービスも充実している印象がある。
- ・介護が必要になってからの支援だけでなく、元気なうちから運動して健康を維持する「予防」にもっと力を入れてほしい。
- ・高齢者が気軽に集まり、楽しみながら運動できる公園や施設があるとよい。
- ・国際医療福祉大学の理学療法・作業療法などの専門性を生かし、学生と高齢者が一緒にストレッチや運動、フレイル・認知症予防等に取り組む連携事業ができるのではないかな。

(4) スポーツ・公園・若者の居場所について

- ・学生が気軽に遊んだり体を動かしたりできる場所が少ない。野球、バレーボール、バスケットボールなどを安価に楽しめる施設がほしい。
- ・子ども・若者・高齢者まで幅広い世代が利用できる、アスレチックや健康遊具を備えた公園があるとよい。
- ・公共の体育館やスポーツジムについて学生・子ども・高齢者向けの割引制度など、利用しやすい料金設定を検討してほしい。
- ・全年代が参加できるスポーツフェスティバルなどを開催すれば、交流やまちの活気につながるのではないかな。

(5) 若者の定住・就職・情報発信について

- ・若者は東京など都市部に「遊ぶ場所が多い」「人・情報・流行が集まる」といった魅力を感じており、卒業後に市外・県外へ出たいと考える学生もいる。
- ・若者が住み続けたい、または一度市外へ出ても戻ってきたいと思えるような魅力ある施設や交流の場が必要。
- ・都市部への交通アクセスを良くし、「大田原に住みながら都市部にも行きやすい」

という環境づくりも定住策の一つになる。

- 市内の医療・福祉分野の就職先について、仕事内容や職場の魅力、待遇などを SNS で積極的に発信し、若者に届く情報提供を進めてほしい。
- 学生が議員や自治会長と直接接する機会は少ないため、危険箇所や生活上の要望をインターネット等で気軽に行政へ届けられる仕組みがあるとよい。
- 国際医療福祉大学卒業後、大田原市内への就職者に対し奨励優遇措置（例えば 30 万円支給）があると良い。
- SNS で大田原市の予算を発信することで大田原市の良さが P R できる。

(6) 地域の支え合いについて

- こどもや高齢者など、困っている人を見かけたときに周囲の目を気にせず自然に手を差し伸べられる、思いやりのあるまちであってほしい。
- 制度や施設だけでなく、人と人との助け合いやつながりが感じられることも「住み続けたいまち」の大切な要素である。

以上

令和8年8月21日

## 報 告 書

大田原市議会 広報広聴委員会委員長 津守 那音 様

大田原市議会 民生文教常任委員長 岡野 忠

大田原市議会報告会実施要綱第9条第1項の規定により、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 担当議員と役割

##### 【担当議員】

岡野 忠（意見交換司会）  
内藤 幹夫（議場案内、書記責任者）  
伊賀 純（その他支援）  
高瀬 重嗣（案内（7階））  
君島 孝明（主催者開会挨拶、写真撮影）  
大塚 正義（案内（1階））  
前田 則隆（受付・資料配布）

#### 2 意見交換会参加者 国際医療福祉大学生 5名

#### 3 意見交換会の内容

テーマ：国際医療福祉大学生と考える 大田原市の医療と福祉の未来について

##### ◆意見交換 Bグループ

##### (1) 本市の良いところ

- ・医療や福祉の関連施設が多く幅広い施設で実習できる環境である
- ・発達障害に関する施設が他自治体に比べ多い
- ・都市部に比べ精神科受診がしやすい
- ・アルバイトの働き先が豊富である

(2) 本市への要望・改善事項

- ・市営バスのＩＣ化
- ・当事者（発達障害など）の掘り起こし
- ・大学内クリニックの受診日を増やしてほしい（現状は土・月のみ）
- ・塩谷病院への交通機関のアクセスを良くしてほしい
- ・１年生から市内就職先の案内・ＰＲがほしい（市内から出る学生を減らせるのではとの考えから、希望に沿った職種や働き先が考えられる）
- ・大学までの交通渋滞解消のため、完全片側２車線化を希望する

(3) 私が市長であったら何からやるか

- ・市営バスのＩＣ化
- ・細い道にも外灯をつける
- ・狭い道を広くする
- ・高校生はバスの本数減により宇都宮など交通機関の便が良い学校へ流出しているため、バスの本数を増やす

以上

令和8年8月21日

## 報 告 書

大田原市議会 広報広聴委員会委員長 津守 那音 様

大田原市議会 建設産業常任委員長 藤田 善幸

大田原市議会報告会実施要綱第9条第1項の規定により、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 担当議員と役割

##### 【担当議員】

藤田 善幸（意見交換司会）  
北原 裕子（書記責任者）  
齋藤 藤男（その他支援）  
平山 一浩（写真撮影）  
中川 雅之（案内（7階））  
菊池 久光（受付・資料配布）  
前野 良三（監査委員業務に従事のため欠席）

#### 2 意見交換会参加者 国際医療福祉大学生 4名

#### 3 意見交換会の内容

テーマ：国際医療福祉大学生と考える 大田原市の医療と福祉の未来について

##### ◆意見交換 Cグループ

##### (1) 現状と課題

- ・大学の近辺に、病気にかかった学生が行く病院が少ない。
- ・一人暮らしの学生が病気になったときなど、気軽に相談できる人がいない。
- ・大田原市は介護施設が充実している。
- ・大田原市は介護施設が多いためか、アルバイトとして介護の仕事が多い。
- ・介護施設で働く人が少ないためか、学生にアルバイトとして介護の仕事が求められている。

- 大田原市は介護を必要な人に対して、介護認定が厳しいと感じる。
- 道路など、バリアフリー化がなされていないところがある。
- 国際医療大学付近は歩道の凹凸など、学生が通学しやすい道路整備がなされていない。
- 4月から7月までの期間は路線バスに乗りきれない状況なので、便数を増やして欲しい。
- 国際医療福祉大学の学生が大田原市で暮らし、医療関係の職種に就くにはどうしたらよいか、政策があるとよい。

## (2) 解決策

- 国際医療福祉大学の学生が医療を受診するときに、タクシーの補助をするなど、手厚い支援をする。
- 国際医療福祉大学の学生が、大田原で積極的に医療関係の職種に就けるよう、医療職の処遇改善をする。
- 国際医療福祉大学の学生が大田原市で就職することができるよう、就業奨励金制度を設ける。
- 若者が大田原市に残り、仕事を続けられるよう給与を高くする。
- 大田原市のまちづくりにおいて、国際医療福祉大学を中心としたアカデミックなまちづくりを推進する。
- 高校生も含め、学生目線でのライフラインの整備をする。

以上

## 令和8年度議会報告会の様子

### ◆開会・議会報告（議会の概要）



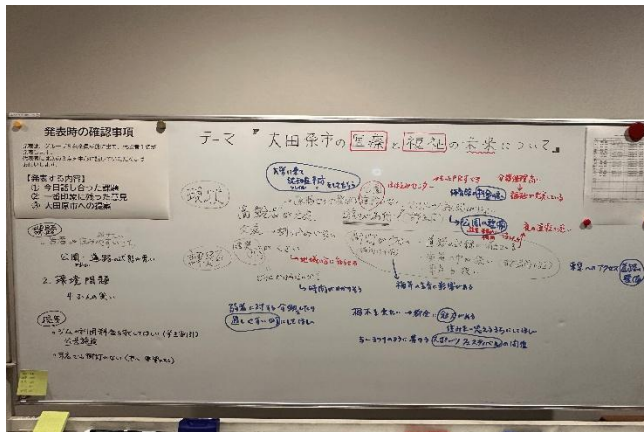
### ◆議場見学・模擬採決体験



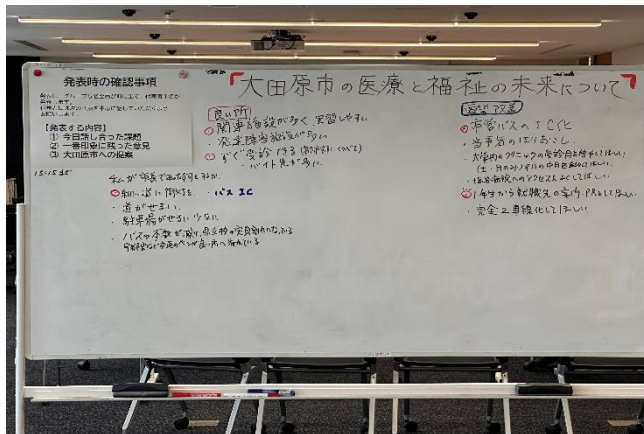
### 【模擬採決体験のテーマ】

- (1) 大学卒業後、市内に就職した学生に30万円の定住支援金を給付すべきである
  - (2) インターネット投票の是非について
  - (3) 14歳以下のSNSの使用を禁止する条例の是非について
- ※3テーマ共に「賛成多数」で可決された。

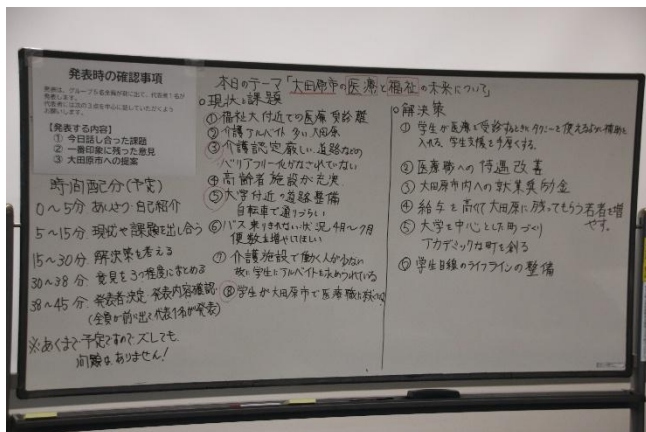
## ◆意見交換（Aグループ：総務常任委員会）



## ◆意見交換（Bグループ：民生文教常任委員会）



## ◆意見交換（Cグループ：建設産業常任委員会）



## ◆閉会・記念撮影

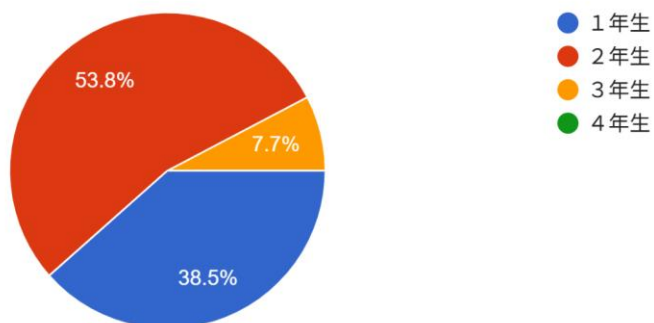


## 令和8年度議会報告会 アンケート集計結果【参加学生向け】

[参加者14名 回答13名 回答率93%]

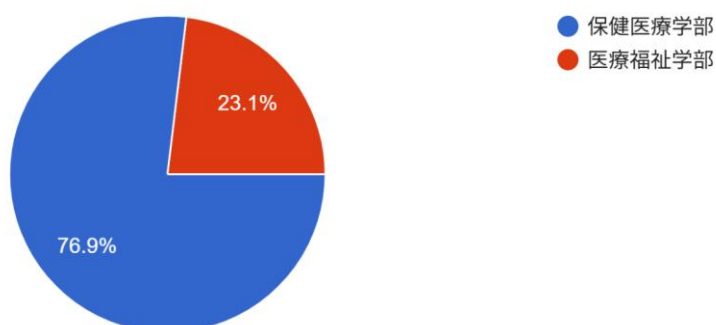
学年を教えてください。

13件の回答



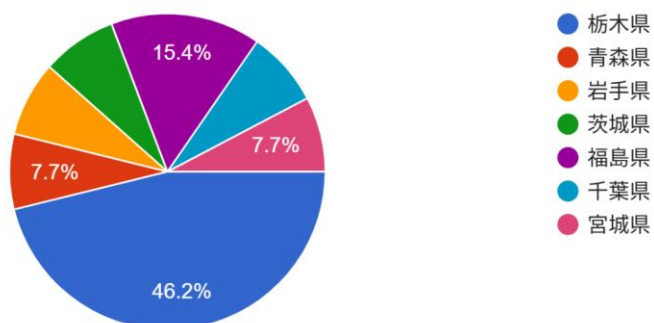
学部はどちらになりますか

13件の回答



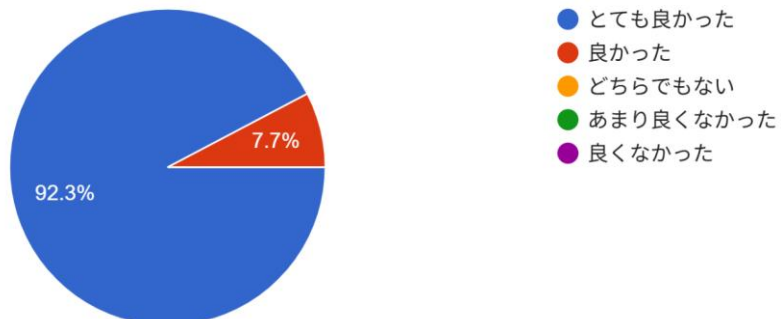
出身地はどちらになりますか

13件の回答



議会報告会（全体）についてのあなたの評価を教えてください

13 件の回答



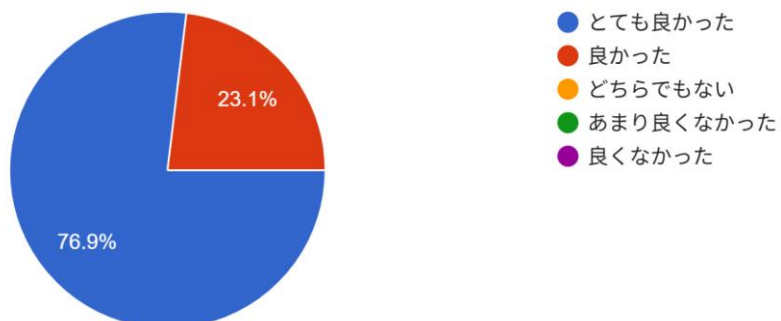
今回の議会報告会で、特に良かった内容があれば教えてください

13 件の回答



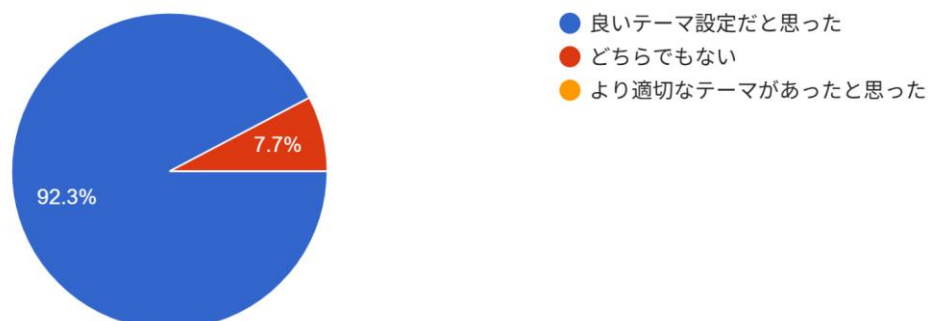
意見交換会についてのあなたの評価を教えてください

13 件の回答



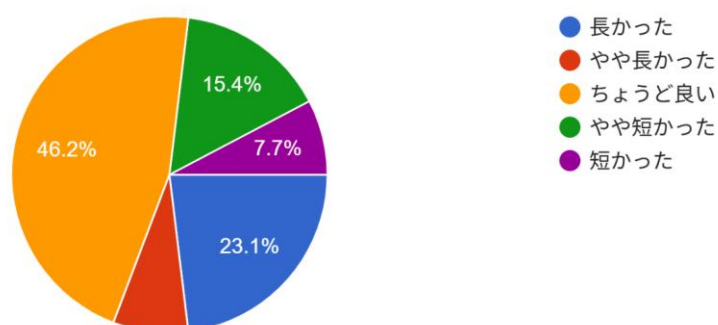
### 意見交換のテーマはどうでしたか

13 件の回答



### 意見交換会の時間はどうでしたか

13 件の回答



### ●今日の報告会のご感想、ご意見などを教えてください

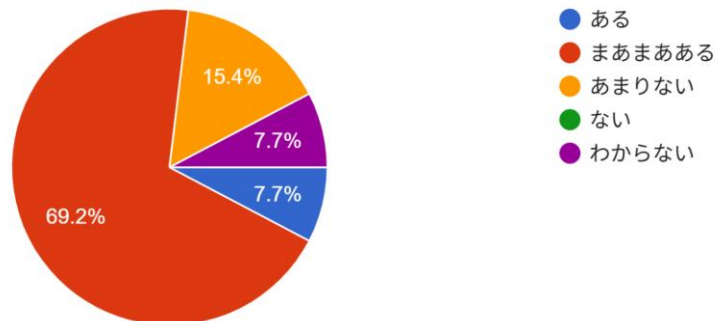
- ・ 学生から出た意見を1つでも2つでも次の世代、未来につなげたらとても嬉しいです。口で言うのはとても簡単なのは理解していますが、市議会の方々よろしくお願い致します。
- ・ 様々な意見をまとめることは難しいと思いました
- ・ 体験することで、実際にどのように行われているのか知ることができとても楽しかった。
- ・ 今回の報告会では、大学生として知っておくべきことを学び、医療福祉専門職を目指す者として改めて考えなければならない課題に気づくことができるテーマ設定になっていると感じました。発表内容がテーマからずれてしまった班があった点は重要な反省点であると感じています。
- ・ 客観的な統計や地域の現状分析に基づいた計画を立てることも重要ですが、「データには表れない、地域住民や大学生の生の声」を地域社会にぜひ反映させていただいた

いです。

- ・ 次回機会をいただければ、大学生から見た市の「住みやすさ」と課題（生活者としての視点）、医療福祉の対象者だけでなく、自分たち若者にとってこの市がどう映っているかを本音で語り合いたいです。交通アクセスの利便性、生活費（家賃や物価）、若者向けの娯楽やコミュニティの有無など、日々の暮らしで感じる魅力や不満など。
- ・ 市議会と聞いて堅いイメージがあったが、思っていたより堅くなくて驚いた。
- ・ このような機会がまたあったら参加したいです
- ・ 市議会と聞いて少しお堅い印象を持っていたので、実際に触れてみて印象が変わった。自由に意見を出したり発言したり、終始和やかな雰囲気が進んでいき、とても有意義な時間を過ごすことができた。友達と話していてここが住みづらいといった意見を市で働く方に共有することができ、とてもよかったと思う。普段は議会の方と話す機会などないので新鮮な気持ちだった。またこのような場があったら参加したいと思った。
- ・ わかりやすい説明だったため、良かったです。
- ・ 普段から私たちが感じている事柄に感じて、市議会の皆様と議論することができて非常に有意義な時間を過ごすことができた。また、今回の意見交換会で出た案についても前向きに検討していただきたいと考える。
- ・ 議員の方々がとても話しやすく、親しみやすかったため、意見を自由に話すことができた。
- ・ とても楽しく参加させてもらいました。こうして生でお会いして意見をぶつけられる体験は貴重なものなのでこれからも取り入れていてほしい。

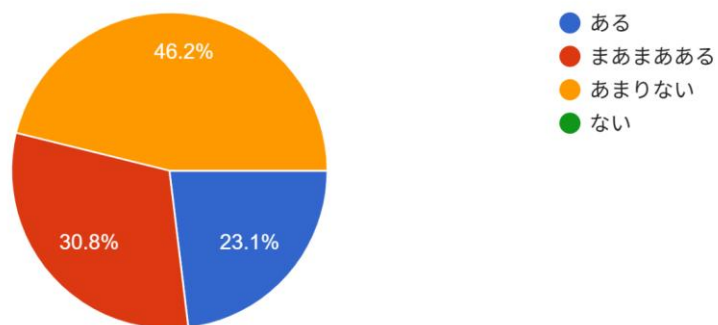
### 政治に興味はありますか

13 件の回答



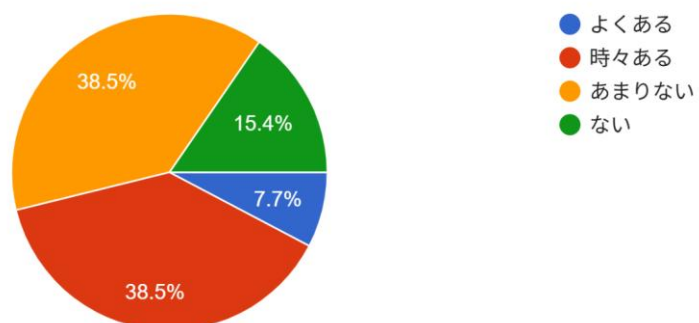
### 政治を身近に感じたことはありますか

13 件の回答



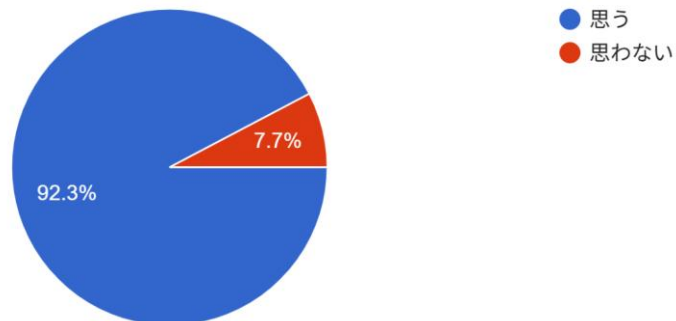
### 家族や友達と政治について話すことはありますか

13 件の回答



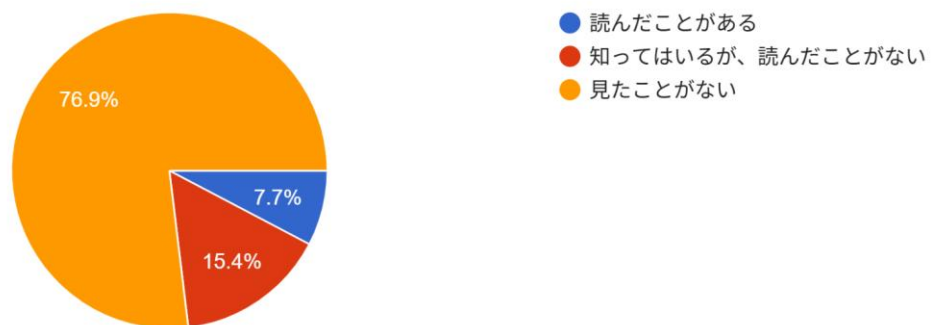
機会があれば大田原市議会を傍聴（視聴）してみたいと思いますか

13 件の回答



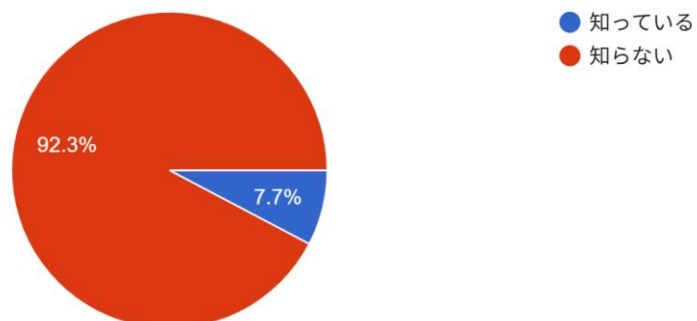
市議会が発行している「議会だより」をこれまでに読んだことがありますか

13 件の回答



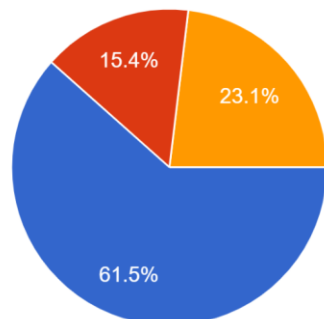
大田原市の「議会だより」をどこで受け取る（読む）ことができるか知っていますか

13 件の回答



より多くの人が「議会だより」を読むためには、どのようなことが必要だと思いますか

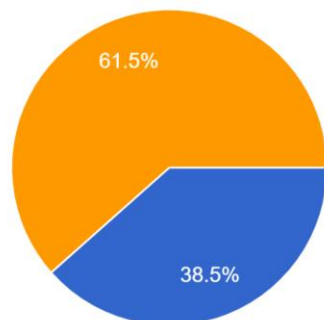
13 件の回答



- より幅広い周知、まずは「議会だより」の存在を知ってもらう取組
- 掲載するコンテンツの見直し
- 「議会だより」のみではなく、市議会の取組を全般的に知ってもらう取組

市議会議員がどんな仕事をしているか知っていますか

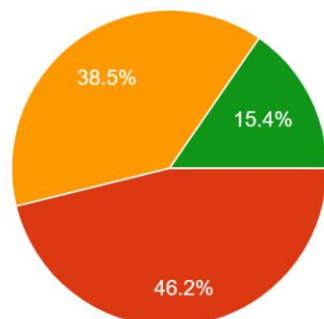
13 件の回答



- 知っている
- 知らない
- 報告会の説明を通じ知ることができた

あなたにとって市議会議員はどのような存在ですか

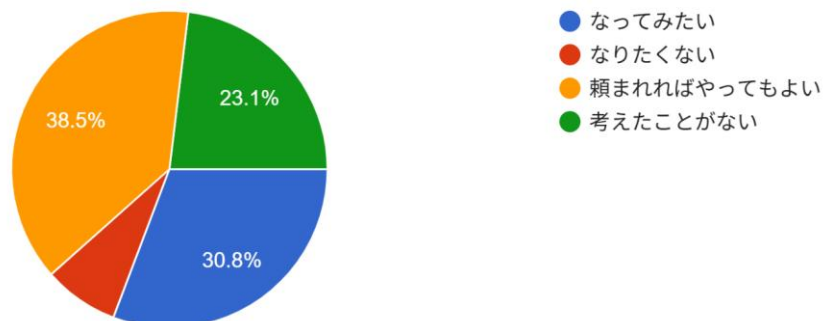
13 件の回答



- 身近な存在
- 比較的身近な存在
- ほど遠い存在
- 考えたこともない

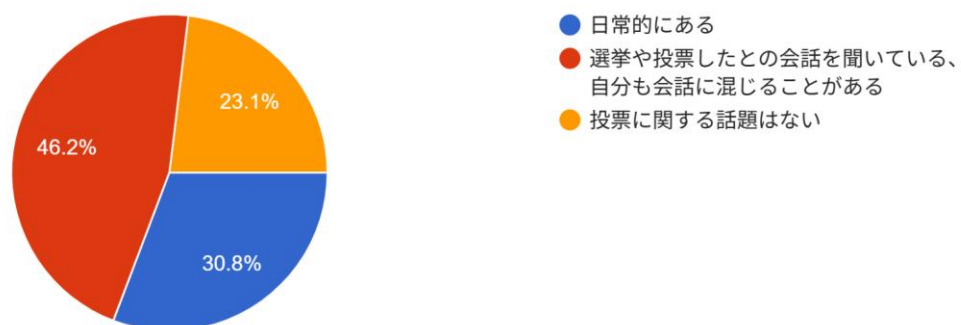
市議会議員という立場についてどう思いますか

13 件の回答



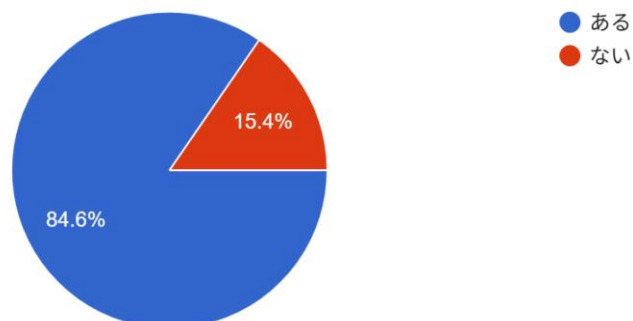
ご家族との団らんや日常会話で、選挙や投票に行く話題に接したことがありますか

13 件の回答



選挙の投票に行ったことはありますか

13 件の回答



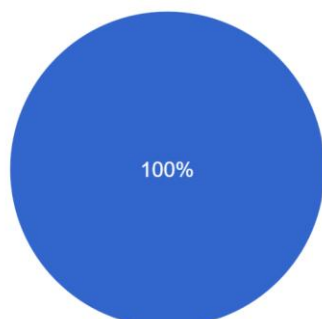
●自分が政治家（市長や議員）になったとして、こんな街にしたいという希望があったら  
お書きください

- ・市民の意見を取り入れて1人でも多く住みやすいと言って貰えるようなそして老若男女が楽しめるような街づくりをしていきたい。
- ・子供から高齢者まで、すべての世代が暮らしやすい街にしたい。
- ・娯楽施設を充実させる。大田原市に住む人々が「大田原市で集まろう、遊ぼう」と人を呼びたいと思えるよう、中高生が遊べる場所、大学生が時間を潰せる場所、大人がショッピングする場所などをつくる。
- ・宇都宮や那須に流れてしまう人の流れを大田原市にとどめるための取組。
- ・私たちが卒業後も大田原市に残り、医療福祉の担い手になりたいと思えるかという「定住性」を高める。
- ・今回のような市民の意見を募る場を定期的に設け、要望を反映させられるまちにしたい。
- ・大学生が大田原に残りたいと思えるようなまちにしてほしい。
- ・やはり学生が多いので、それを活かした取組がしたいと考える。例えば、今回の話合いでも挙げた高齢者を学校に招き、一緒に運動をするという意見は、この土地ならではのことで、そのようなことを全面的に押し出して活動したい。
- ・もっと老若男女が協力し合い、助け合える環境にするためにも、大田原に多くの人が過ごしやすくなる政策をしたいです。
- ・道路の中心線は定期的に直したい。
- ・そのまちにしかない魅力を持ったまちにしたい。
- ・活気あふれる笑顔のおおたわら。

## 令和8年度議会報告会 アンケート集計結果【引率用】

議会報告会（全体）について、評価を教えてください

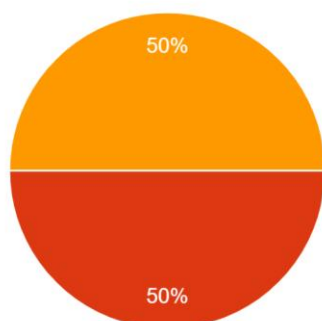
2件の回答



- とても良かった
- 良かった
- どちらでもない
- あまり良くなかった
- 良くなかった

今回の議会報告会で、特に良かった内容があれば教えてください

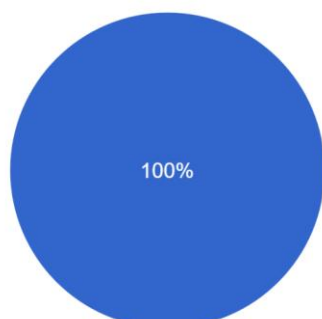
2件の回答



- 議会報告（大田原市議会の概要について）
- 議場見学（模擬採決体験）
- 意見交換「国際医療福祉大学生と考える大田原市の医療と福祉の未来について」

意見交換会についての評価を教えてください

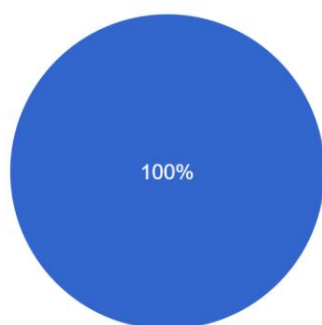
2件の回答



- とても良かった
- 良かった
- どちらでもない
- あまり良くなかった
- 良くなかった

意見交換のテーマはどうでしたか

2件の回答

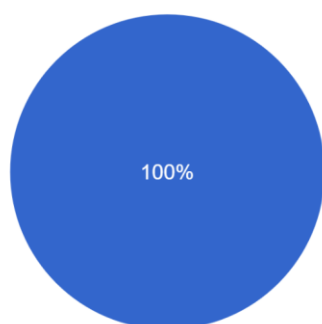


- 良いテーマ設定だと思った
- どちらでもない
- より適切なテーマがあったと思った

今回の議会報告会をはじめ、

今後、大学として本市議会に期待することがありましたら教えてください

2件の回答



- 議会報告会等の機会を継続的に創出していきたい
- 大学の講義等において出前講座等を実施してほしい
- 本会議の傍聴等、市議会（政治）に触れる機会を増やしていきたい

### ●今日の報告会のご感想、ご意見などを教えてください

- ・ 議会報告では、議会の様子を誰でも傍聴できることなどの説明を受け、議会がより身近な存在であると感じました。そのため、その後の話し合いでも、学生が意見を述べやすい環境が整えられていたと感じます。また、議場見学では普段入ることのできない議場を見学することができ、大変貴重な体験となりました。意見交換会では、少人数のグループに分かれて話し合いを行ったことで、一人ひとりが発言する機会が確保され、全員が意見を述べやすい雰囲気だったと感じました。さらに、議員の皆さんが進行役を務めてくださったことで、安心して意見交換を行うことができたと思います。また、最後に、今回の意見を今後の議題として取り上げていただけると伺い、学生達の意見が市政に反映される機会があることを大変嬉しく感じます。今後もこのような意見交換の場を継続的に開催していただけると幸いです。この度は、貴重な機会を設けていただき、誠にありがとうございました。
- ・ 議員の皆様と学生が交流をすることは、相互理解をより一層進化させていく上で大変大事なことで感じました。